

# 原子力マシーンとちっちゃいこえ

## 文化人類学者と詩人の対話

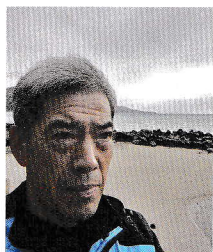
日本文化人類学会では、広く人類学的な考え方を知ってもらうため、毎年、公開シンポジウムを開催しています。今回は、広島で原爆の問題を中心に考えます。被爆したのは人間だけではないし、広島と長崎だけでもありません。原爆をグローバルな「原子力マシーン」のなかで捉え直しながら、そこから漏れ出す人間や動物や植物たちの「ちっちゃいこえ」を聴きとり、それを表現することの意味について、詩人のアーサー・ビナード氏をゲストに迎え、詩的想像力と人類学的想像力の対話を通して探っていきます。

日時：12月4日(日) 13:00開始 (12:30開場)

- 第1部 ● 13:00-15:00 「研究報告、絵本朗読、対談」  
主な登壇者：内山田 康、アーサー・ビナード、松嶋 健
  - 第2部 ● 15:10-16:35 「研究報告、被爆樹木楽器演奏」  
主な登壇者：中村 沙絵、吉田 真理子、箭内 匡
  - 第3部 ● 16:45-18:00 「紙芝居、全体討論」  
登壇者：アーサー・ビナード、内山田 康、松嶋 健、中村 沙絵、  
吉田 真理子、箭内 匡
- 総司会：中空 萌

※ プログラム詳細はチラシ最下部記載の [シンポジウム情報サイト] よりご確認ください。

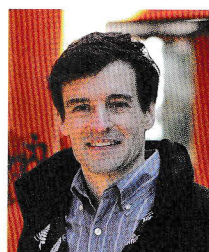
### 登壇者プロフィール ※登壇順



内山田 康 (うちやまだ やすし)

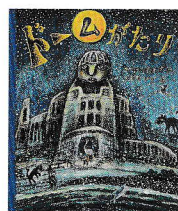
筑波大学名誉教授。  
主な著作に『原子力の人類学』(青土社)。  
『放射能の人類学』(青土社)。

【写真左下】ムナナ(ガボン)：人工湖で泳ぐ中学生たち。堤防の反対側には露天掘りのウラン鉱山があった。【写真中央】ラ・アーグ(フランス)：再処理工場による放射能汚染の指標生物のサンプリングに向かうNGO職員とボランティア。右側には海から上がってきた二人の女性。【写真右下】セラフィールド(イギリス)：再処理工場に隣接して農地があり、羊が放牧されている。(撮影：内山田 康)



アーサー・ビナード (Arthur Binard)

米国ミシガン州出身。詩人。  
詩集『釣り上げては』(思潮社、中原中也賞)、『ゴミの日』(理論社)他。著書『知らなかった、ぼくらの戦争』(小学館)、『日本語ぼりぼり』(小学館、講談社エッセイ賞)他。絵本『ここが家だ：ベン・シャーンの第五福竜丸』(集英社、第12回日本絵本賞)、『さがしています』(童心社、第44回講談社出版文化賞絵本賞、第60回産経児童出版文化賞ニッポン放送賞)、『ドームがたり』(玉川大学出版部、第23回日本絵本賞)、紙芝居『ちっちゃいこえ』(童心社、第58回五山賞特別賞)他。文化放送『ラジオぼりぼり』、『封印された真実：軍属ラジオ』(2021年日本民間放送連盟賞最優秀賞、第58回ギャラクシー賞ラジオ部門大賞)他。



『ドームがたり』(玉川大学出版部)

松嶋 健 (まつしま たけし)

広島大学大学院人間社会科学部研究科教員。東京大学大学院総合文化研究科客員教員。

主な著作に『ブシコナウティカ：イタリア精神医療の人類学』(世界思想社)。共編著に『トラウマを生きる』『トラウマを共有する』(京都大学学術出版会)。

中村 沙絵 (なかむら さえ)

東京大学大学院総合文化研究科教員。

主な著作に『響応する身体：スリランカの老人施設ヴァディヒティ・ニヴァーサの民族誌』(ナカニシヤ出版、第45回澁澤賞)。

吉田 真理子 (よしだ まりこ)

広島大学大学院人間社会科学部研究科教員。

共編著として『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』(青土社)、『新型コロナウイルス感染症と人類学：パンデミックとともに考える』(水声社)。

箭内 匡 (やない だだし)

東京大学大学院総合文化研究科教員。

主な著作に『イメージの人類学』(せりか書房)、共編著に『アフェクトゥス：生の外側に触れる』(京都大学学術出版会)等。

中空 萌 (なかぞら もえ)

広島大学大学院人間社会科学部研究科教員。

主な著作に『知的所有権の人類学：現代インドの生物資源をめぐる科学と在来知』(世界思想社、第47回澁澤賞)。

### 楽器演奏

ヴァイオリン：高旗 健次 (たかはた けんじ)

広島大学大学院人間社会科学部研究科教員。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院芸術家養成課程修了。同大学大学院国家演奏家試験課程ソリスト科で「ドイツ国家演奏家資格」を取得修了。発表作品としてE.イザイ作曲 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ(ALMコジマ録音、「レコード芸術」特選盤)。

ヴィオラ：重森 玄貴 (しげもり げんき)

広島大学大学院人間社会科学部研究科教育科学専攻音楽文化教育学領域在学中。

チェロ：阿曾沼 裕司 (あそぬま ゆうじ)

エリザベト音楽大学非常勤教員。あきクラシックコンサート実行委員会委員。

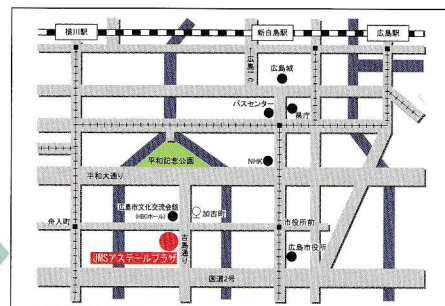
ピアノ：樋口 佳祐 (ひぐち けいすけ)

広島大学教育学部第四類音楽文化系コース在学中。

マリンバ：西村 安世 (にしむら やすよ)

東京藝術大学卒業。日本打楽器協会第28回新人演奏会特別賞・岩城賞。

■被爆樹木楽器とは…広島で原爆を生き延びたシダレヤナギやヒロシマエバヤマザクラなど、被爆した樹木の一部に用いて作られたヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのこと。



広島駅から会場までのアクセス  
市内電車・バスいずれでもご利用いただけます。

- 市内電車：「宇品行(紙屋町経由)」→「市役所前」下車(600m)または「江波行」→「舟入町」下車(400m)
- バス：広島バス24号路線「吉島営業所行」または「吉島病院行」乗車 →「加古町」下車(200m)
- タクシー：約15分

会場：JMS アステールプラザ(中ホール)

〒730-0812 広島市中区加古町4-17 電話：082-244-8000



お問合せ：中四国人類学談話会事務局  
chushikoku604@gmail.com

[シンポジウム情報サイト] <http://www.taihi.org/>

本シンポジウムは、JSPS 科研費JP22HP0005の助成を受けたものです。